

令和8年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	87	学校名	茨城県立三和高等学校						課程	全日制			学校長名	竹村 広治			
教頭名	藤井 拓也									事務長名	鈴木 直治						
教職員数	教諭	21	養護教諭	1	常勤講師	7	非常勤講師	8	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	48	
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		32	33	24	34	42	31			98	98	9				

2 目指す学校像

- ① 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、学校行事、体験活動や交流活動等とおして、誠実で豊かな心を育む学校
- ② 個に応じたきめ細かな学習指導による基礎学力の定着をもとに、確かな学力と自ら学ぶ姿勢を身に付けることができる学校
- ③ 部活動や特別活動の活性化により、心身ともに健康で、何事にも一生懸命に取り組む澁刺とした生徒を育成する学校
- ④ 望ましい職業観と勤労観の育成を図りながら、生徒一人一人の進路希望の実現を目指し、地域社会の発展に寄与できる人財を育成する学校
- ⑤ 保護者や地域社会と連携・協力をしながら、教育活動の改善と充実を図る開かれた学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	○主体的に学習活動や学校生活に取り組む態度、社会性、豊かな人間性、課題解決力の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○生徒一人一人の多様な学習ニーズにきめ細かく対応した学習活動と体験活動、キャリア教育による、生徒の進路希望の実現
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○基礎学力の向上を目指して学習活動に励み、学校行事、体験活動や交流活動等に積極的に取り組む意欲のある生徒

別紙様式1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導 (教育課程)	習熟度別学習や少人数学習を通じて、義務教育段階の学習内容の「学び直し」を行い、基礎学力の向上を図っている。その結果、一部の生徒は自信を持ち、意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになった。しかし、家庭学習が不足している生徒や苦手意識を強く抱いている生徒も多く、個に応じたきめ細かな学習指導がますます求められている。また、外国籍生徒の入学が増加傾向にあり、日本語指導のニーズがでてきている。	各教科において学習のつまづきを分析し、ICTを活用しながら『学び直し』と『基礎学力の定着』を図るための具体的な対策を講じる。到達度テスト等を活用して成果の検証を行いながら、言語活動や発表の機会を増やし、学習意欲を維持しつつ、幅広い学力レベルの生徒に対する個に応じた指導が課題である。また、外国籍生徒への日本語指導は、外部機関と連携しながら体系化を目指す。
進路指導 キャリア教育	各学年段階に応じた情報提供や個別指導、インターンシップ等の取組により、望ましい職業観や勤労観の育成を図ることができている。進学希望者や進学実績は着実に増加しており、進学決定率、学校推薦による就職決定率は共に100%であった。就職先との連携により円滑に就業できるよう、継続した支援が必要である。	進学および学校推薦での就職の進路決定率100%の維持を目指す。進路意識の向上のため、各学年の段階に応じて生徒の進路意欲を引き出す指導を工夫し、地域社会に貢献できる人材育成に向けた努力を継続する。キャリアパスポートを活用し、自己の振り返りを通じてキャリア形成を支援する。また、就職において増加している自己開拓の生徒への対応方法を検討する。
生徒指導	基本的な生活習慣が身につけていない生徒や規範意識に欠ける生徒が、一部ではあるが見られるようになった。問題行動は、SNSに関連した人間関係のトラブルが多くを占める。高校進学を機に生活全般が好転した生徒もいる一方で、学校生活への不安や家庭内の問題を抱える生徒もおり、一人ひとりに対するきめ細かな指導の継続が必要である。職員がチームとして協力することが求められる。	規範意識の向上を図るため、組織的な生徒指導体制を維持し、シチズンシップ教育を実施していく。生徒が抱える問題は多様化しているため、これまで以上にSCやSSWなどの専門家を積極的に活用する。SNSに関する問題に対応するため、情報リテラシーの醸成に向けた取り組みを強化する。生徒が安心安全に学校生活を送るため、小さなことでも情報を共有し、組織的に対応するとともに、保護者との協力体制を強化していく。
特別活動	諸活動をとおして、自己肯定感やコミュニケーション力を身に付け、進路実現につなげている生徒もおり、本校における意義は大きい。部活動については、入学生徒数は減少傾向であり、加入率低下による部員数減少に伴い団体種目では一部で活動を休止している。一方で、個人種目の部活動では、熱心に活動している。文化部は部員数が増加傾向にある。	部活動に参加する生徒が減少する中で、指導方針を踏まえた持続可能な形態について検討する必要がある。同時に、生徒会や委員会の活動において、生徒が主体的に活動できる体制を整えるため、ICTなどを活用し、これまでの活動を継承できるようにする。キャリアパスポートを活用して、生徒が自己の活動を振り返る機会を定期的に設定し、部活動や学校行事、生徒会活動を通じて生徒のキャリア形成を促進していく。

別紙様式 1 (高)

<p>組織運営 (働き方改革)</p>	<p>勤務時間実態調査によると、全体の在校時間は月平均で 15 時間 58 分、45 時間超過者割合は 4.7%、80 時間超過者割合は 0%となった。全体としては順調に減少しており、職員の特別休暇などの活用も増加している。しかし、生徒の個別指導や部活動指導に充てる時間的・精神的な余裕は依然として確保しにくく、教員の自発的な努力に依存している部分が多い。一方で、資料のペーパーレス化は順調に進んでいる。</p>	<p>業務の精選と効率化を進め、職員の業務負担の偏りを減らし、超過勤務の削減を目指す。ICT を活用した DX 化をさらに推進し、効果的かつ効率的な業務のあり方を検討する。また、各部長や主任が校務部内での連携を促進し、若手教員の負担を軽減する。</p>
<p>教育環境整備</p>	<p>校舎・体育館・グラウンド等のハード面では比較的恵まれている。電子黒板も授業や行事において有効活用されている。グラウンドや特別教室への Wi-Fi の整備も行われた。</p>	<p>ICT 整備については、対応部署を中心に、教員の人的な配置や事務部との連携など、校内ルールを含めた環境整備を継続し、有効活用できるよう取り組む。Wi-Fi 環境については、生徒が活動する場での整備がほぼ完了し、今後は効果的な活用やセキュリティ意識を高めるための職員研修を実施する。</p>
<p>地域との連携 (保護者、地域住民等)</p>	<p>保護者や地域住民は本校の特色や存在意義を理解し、支援してくれている。特にインターンシップや「総合的な探究の時間」においては事業の意図を理解し、実習の受け入れ、講師の派遣等、多方面にわたり協力いただけている。</p>	<p>保護者や地域住民が本校に期待する人材育成のため、引き続き情報交換や連携を密にし、地域に支持され続ける学校を目指す。学校ホームページなどを活用し、探究活動に関する連携や情報発信に注力する。</p>
<p>保健管理 安全管理</p>	<p>保健厚生部を中心に組織的な保健管理に取り組み、備品整備、情報提供等を積極的に行っている。また「学校危機管理マニュアル」に基づき、防災体制の確立・安全管理を行っている。</p>	<p>「学校危機管理マニュアル」を定期的に見直し、現状に即した安全管理体制の構築に努める。卒業後の就業に備え、生徒の健康への関心を高め、自己管理能力の向上を図る。また、教職員の心身の健康を維持し、明るく前向きに働ける職場環境の整備を目指す。</p>
<p>研修 (資質向上の取組)</p>	<p>保護者対応や生徒支援、ICT に関する研修を行っている。また、オンライン学習方法研修会や研修センターの希望研修等に参加した教員が校内で研修内容を共有するなど、組織的に取り組んでいる。服務規律の確保に関しては、職員間で積極的に声を掛け合い、コンプライアンスの意識を共有できている。</p>	<p>相互授業参観への積極的な参加を促し、学校全体で授業改善に努める。ICT 活用に関する技術研修を重点的に実施し、効果的かつ効率的な教育活動の展開とコンテンツの蓄積を進める。授業改善推進プロジェクトチームを中心に、生徒の学力向上に向けた組織的な取り組みや校内研修を推進する。</p>
<p>情報提供 (広報、生徒募集)</p>	<p>夏期休業中に実施している学校説明会では多くの中学生や保護者の参加がある。11 月の学校公開時に探究活動発表会を併せて実施し、生徒間の交流により本校教育活動をアピールした。</p>	<p>リーフレットや動画による学校紹介など、学校 HP による広報活動を適宜行うとともに、管理職を中心とした中学校訪問や生徒間の交流による生徒募集を積極的に行う。</p>

別紙様式1 (高)

5 中期的目標

- ① 組織的、かつ個に応じた生徒指導を行い、基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、学校行事、体験活動や交流活動等を活用し、誠実で豊かな心を培う「心の教育」をより一層推進する。
- ② 習熟度別学習や少人数学習等のきめ細かな指導と能力に応じた指導による基礎学力の定着をもとに、確かな学力と自ら学ぶ姿勢を育てる。
- ③ 部活動や特別活動等の活性化により、健全な精神と丈夫な身体を培い、何事にも一生懸命に取り組む澁刺とした人間を育てる。
- ④ 各学年に応じた進路教育やインターンシップ、資格取得等を生かして、生徒一人一人の進路希望の実現を目指すとともに、望ましい職業観と勤労観の育成を図る。
- ⑤ 保護者や地域社会との情報交換や交流を密にし、更なる連携と協力をしながら、開かれた学校を目指し、より一層の教育活動の改善と充実を図る。
- ⑥ 学校の現状を踏まえ、働き方改革の推進を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 基本的な生活習慣の確立と誠実で豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 服装容儀の指導方法を工夫・改善し、自律的な生活態度の育成を図る。 ② 挨拶や言葉遣い、話を聞く態度の育成等の礼儀指導の充実を図る。 ③ いじめの対処方針や指導計画を定め、いじめの未然防止、早期発見や早期解消に向けた取組を組織的に実践する。併せて関係諸機関とも連携し、いじめや暴力のない「安全・安心な学校づくり」を推進する。 ④ 生徒や保護者とのコミュニケーションを密にして、悩みや相談に応じるとともに、相談しやすい雰囲気作りに努め、SCやSSWの活用と併せて進路変更者をゼロに近づける。 ⑤ 境特別支援学校等との交流活動や様々な体験活動、学校行事等を活用して豊かな心を培う。 ⑥ 学校の教育活動全体をとおして、人間としての在り方・生き方に関する教育を行い、道徳心や規範意識、社会性等を育成する。
2 わかる授業の実践による基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ わかる授業の実践をとおして一つ一つわかる喜びを積み重ね、不得意科目の克服と併せて、生徒の学習への自信につなげる。 ⑧ 習熟度別学習やTT、ICT活用授業等の指導形態の工夫・改善により、きめ細かな指導を実践する。 ⑨ コンピューターやタブレットを活用した授業方法を研究する。
3 主体的に課題解決に取り組む学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 授業改善推進プロジェクトチームを中核とした全職員による協力体制を構築し、授業公開及び研究協議等の充実によって生徒の進路実現に必要な学力を身に付けさせるための組織的な取組を推進する。 ⑪ 「生徒による授業評価」において「授業満足度」が3.4以上。(全教員の平均4段階で評価)

別紙様式1 (高)

<p>4 部活動や特別活動の活性化によるたくましい心の育成</p>	<p>⑫ 部活動における指導方法の工夫・改善による競技力の向上や、合同チームなどでの試合機会の確保に努め、部活動の活性化を図る。 ⑬ 球技会等の学校行事をとおして協力する心や団結力を育む。 ⑭ LHRにおける指導方法を検討し、より有効なLHR活動を推進する。 ⑮ 挨拶運動やボランティア活動等をとおして、生徒会活動の活性化を図る。</p>
<p>5 生徒の進路希望の実現</p>	<p>⑯ 生徒一人一人の資質・能力や適性に基づいた計画的な進路指導を実践する。 ⑰ 外部講師による講演会等の実施方法を工夫し、企業見学やインターンシップをとおして、望ましい職業観と勤労観の育成を図る。 ⑱ 礼儀指導や面接指導を組織的に行う。更に資格取得を奨励し、希望者の進路決定率100%を目指す。 ⑲ キャリアパスポート等を活用して、積極的に学校行事に関わる姿勢を育成するとともに、キャリア教育を推進し、社会に貢献できる人財の育成を図る。</p>
<p>6 「地域とともにある学校づくり」の推進</p>	<p>⑳ 学校の情報を積極的に発信するとともに、保護者や地域社会からの要望や提言を集約し、学校教育の改善と充実に生かす。 ㉑ 中学校との定期的な情報交換をとおして、中高の連携を密にし、中学校や地域社会に信頼され、安心して通うことができる学校を目指す。 ㉒ 探究活動やボランティアをとおして地域社会と連携や協力する心を培い、交流を深める。 ㉓ 学校ホームページやリーフレットなどを利用して、中学校や地域社会への広報に努める。</p>
<p>7 将来の学校の在り方に関する議論の活性化</p>	<p>㉔ 新学習指導要領の目的を達成するため、生徒に身につけさせたい資質・能力を全職員で共有し、生徒の実態に即した魅力ある教育活動を創造する。 ㉕ グランドデザインを基に、「将来構想」に関する議論を活性化し、社会の変化を見据えながら中・長期的な学校のビジョンを確立する。 ㉖ 入学志願者を増加させるための具体的方策について議論する。</p>
<p>8 持続可能な学校教育のための働き方改革の推進</p>	<p>㉗ 各学校行事について、目的と効果を検証しながらより有効な実施方法を検討し、精選を図る。 ㉘ 教材の共有化、ICTを活用した情報の共有化やペーパーレス化などを更に推進し、業務の効率化を図る。 ㉙ 部活動運営方針を軸に適正な部活動の数や指導の在り方を検討し、見直しを図る。 ㉚ 校務分掌の再編や業務の見直しにより、教員負担の分散をすすめる。</p>